

ペットを連れた避難、受け入れ対策が急務

◆環境省が推奨する災害時のペット同行避難

2025年2月、東京都は首都直下地震などに備えるため、災害発生時の避難所運営の指針案を策定した。課題の一つとなっていた「ペット受け入れに関する準備の不足」については、すべての避難所にペットを飼う人が同行避難できるよう、ケージやえさを備蓄する目標も定めた。

東日本大震災で、飼い主がペットを助けに自宅に戻って津波にのまれるなどの教訓から、ペットを連れた避難の必要性が認識された。環境省は13年に、ペット救護のガイドラインを策定し、ペットとの「同行避難」の推奨を初めて打ち出した。18年の改訂では、ペットの健康と安全を守る責任は飼い主にあることを強調し、飼育用品の備蓄、予防接種など事前にすべきことを明示している。

アイペット損害保険が、犬・猫飼育者を対象に行ったペット防災対策に関する調査（24年12月実施）によると、環境省による「同行避難」の推奨を知っている人は約15%に留まるも、約8割はペットとの同行避難を希望している。

◆各自治体はペット同行避難への対応を模索、愛知県は民間からもアイデア募集

避難所を運営する自治体の課題は、スペースの確保と、動物が苦手な人やアレルギー症状が出る人への配慮だ。能登半島地震の避難所では、ペットの鳴き声がかかるさくて眠れない、といった苦情も出たという。こうした課題に対し、各自治体は対応を模索しており、愛知県では23年、ペット同行避難を推進するアイデアを募集した。15件の応募があり、鉄鋼建材商社の森定興商が、ピースノートらと共同で開発したコンテナハウス「ペットステーション」が最優秀評価を得た。移動が可能で、ペットケージを据え付けており、平時には避難訓練や保護猫の活動支援拠点としても活用できるフェーズフリーなつくりになっている。同社は今後、他の自治体などにも販売を進めていく方針だ。

ペット同行避難を支援するコンテナハウス



出所：森定興商のリリースより

「ペットも家族」と考える人が多いいま、飼い主も、動物が苦手な人も、それぞれが安心して気兼ねなく避難できる対応策が求められる。 【秋元真理子】